ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

東日本APMニュース

第443号　2009. 2/10
《中小企業人材確保事業》

社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
東京都中央区築地3－12－5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
URL:http://www.ejp.or.jp　FAX 03(3541)4324
発行人　髙橋　廣

目　次

平成21年新年賀詞交歓会賑やかに開催……1
全日本プラ連合会　賀詞交歓会……3
地球温暖化あれこれ（四季）……5
第17回改善事例発表大会ご案内……6
平成20年10月～12月会員業況調査報告(全国版)…7
事務局レポート……12
雇用管理セミナー開催のご案内……13

平成21年新年賀詞交歓会　賑やかに開催

～「あせらず」「あわてず」「あきらめず」経営基盤を見直し、対応を～

挨拶をする齋藤会長

平成21年の新年賀詞交歓会が冬ぽたんが見ごろの上野精養軒において、関東経済産業局様はじめ関連業界団体、企業等多くの来賓をお招きし、大勢の会員企業の皆様が参加して賑やかに開催されました。

新春講演会では、日本で初めてエアバックを開発された元本田技術研究所・主席研究員の小林三郎氏より「生残りをかけたモノづくりへの挑戦～ホンダのイノベーション挑戦文化～」と題し、大変熱いお話を戴きました。

その後、会員企業の業績に貢献し、今回推薦を戴いた従業員の表彰式が行われました。17時からは新春祝賀会が始まり、当工業協会の齋藤会長から以下の挨拶を申し上げました。

「新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新年をお迎えのこと心よりお喜び申し上げます。100年に1度といわれる大不況の中、私は不安と心配だらけの2009年の新春を迎えました。

本日は不況の中ご多用中にもかかわらず、当協会恒例の新春講演会並びに賀詞交歓会に、関東経済産業局の田中課長様始め関連業界団体また会員皆様方大勢のご来席を賜り誠に有難うございました。心より感謝申し上げる次第です。

先ほどの講演会におきましては、講師の一橋大学院・客員教授・小林三郎先生より、大変貴重な、お話を賜りました。ホンダの技術陣が車開発で地道に取組んだイノベーションへの挑戦、そのスピリッツは不況の中モノ作りの現場にいる一員として、大変参考になられた方も多くいたのではない

齋藤会長（中央）と貢献者の皆さん

でしょうか、今後の経営に役立てていただきたいと思います。

さて、昨年を振り返りますと、過去に例の無い異常の年でありました。前半は原油価格が１バレル150ドルに高騰し　原料高と価格安に苦しめられ、後半はアメリカで発生した金融危機が世界に波及し　実体経済が悪化　世界が同時不況に陥りました。日本も例外でなく、急激な経済危機は「我々モノ作りの現場に受注の減少や先送りなどをもたらし」　特に自動車やデジタル家電の部品生産に携わる企業では、仕事が無く「毎日が５Ｓの活動」で固定費も賄えない危機的な経営状況で新年を迎えられた企業も沢山ございました。

このような事態になることを　誰が予測出来たでしょうか？「株価」「原油価格」「為替」「景気動向」などについて、著名なエコノミストやシンクタンク等ほとんどが予測できませんでした。人の言う事を信用してはいけない、特に予想や予測ほど当てにできない事の証明が2008年でありました。

自分を信じ、判断して　事業経営していくことが大切ではないでしょうか？？

そのような厳しい環境下での昨年の協会運営でしたが　皆様のご協力の元、人材確保事業や重点事業である能力開発事業も順調に消化することが出来ました。

能力開発事業では、技能講習や通信教育講習等の実施、検定委員や講師の皆様の協力を戴き、92名の成形技能士を誕生させることが出来ました。

又　取引先への価格改定の要望、樹脂メーカーへの材料値下げ要望など全日本連合会と協力し実施して参りました。会員各位の皆様には、本年も昨年に増してのご協力を宜しくお願い申し上げる次第であります。

20日米国で初めての黒人の第44代大統領、オバマ氏の就任式が盛大に行われました。果たして世界恐慌脱却への起爆剤になれるのか？期待していた反面、多くの新聞記事が金融システム不安の再燃とか、景気回復のシナリオが消えないといった不安説が多く見られ、今後の動向が注視されています。昨日の新聞で、22億円で伊フィアット社がクライスラー社の出資比率の過半を取得する権利を得たとの記事がありました。因みに同社に対しては10年前には独ダイムラー社が３兆円超で買収、07年にはサーベラス社が６千３百億円で再買収している。10年前の1454分の一までクライスラー社の企業価値が暴落したことになる。

新春講演をする小林三郎氏

日本経済においても100年に１度の不況は、日に日にその厳しさは増しており、先日の月例経済報告では、景気の基調判断を「急速に悪化」と発表されました。「急速」という表現をしたのは1975年以降、初めてだそうです。

「激動と変化、混迷の中での試練と我慢の年といわれております」足元を強靭に「あせらず」「あわてず」「あきらめず」に事業経営基盤の見直をし、景気の回復に備えた対応が必要ではないかと思います。

日本経済の要は中小企業であると言われていますが、その日本経済の発展に大きな貢献をしてきた多くの中小企業が、いま危機的な経営状況に直面しております。

日本の国際競争力を高めたのも、大企業の担い手となって「我々中小企業の優れたモノ作りの技が支えたからこそ」であります。「我々の優れたグ

交歓会風景

関東経済局　田中課長様

ローバルなモノ作りの火」を絶やさないためにも我々の現状の苦しみを大企業の経営者の方々や、行政の方々に理解していただきたいと切に願っております。

我々中小企業の多くの仲間は、戦後の混乱そして幾多の苦難を乗り越えてきた「知恵と技のＤＮＡ」を持ち備えております。

寒い冬ばかりでは有りません。春は必ず来ます。ピンチばかりではありません。必ずチャンスは参ります。 一日も早い景気の回復を信じ、皆さんと力を合わせこの難局と戦ってまいりたいと思っております。

本日ご臨席の皆様方には、当工業協会始め、我々業界に対しまして昨年に増しての、ご支援、ご協力、ご指導を賜りたく、高い席からでございますが宜しくお願い申上げます。

最後になりますが、本日は時間の許す限りご歓談いただき、情報交換をして戴ければと思います。そして、今年１年が我々業界にとりましても、また皆様の企業にとっても良い年になりますことをご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠に有難うございました」。

続いて、ご来賓を代表して関東経済産業局の田中製造産業課長様からは、

「昨年の前半は原油・原材料高、後半は米国からの金融危機による景気の急激な減速、円高で皆様方の業界は大変厳しい状況になっている。国としては、10月末に緊急金融支援対策(信用保証枠の拡大、電話相談等)をスタートさせたが、今後、年度末を控え、６兆円から30兆円に中小企業対策を増やし対応させて頂くので利用ください。

さらに将来に向けた施策では以下３つ紹介します。①中小企業のモノづくり高度化法のうち、プラスチック成形を含む９分野の指針を見直し、利用向上を目指して技術範囲を追加したので、技術開発を目指している皆様はエントリーください。②経済産業省が進めている「ものづくり日本大賞」を募集中であり、真摯にものづくりに携わっている方々の推薦など積極的に応募いただくようお願いします。最後に③「先進ものづくりシンポジウム」が次週に開催されるので是非お越しください。厳しい時ではありますが乗り切っていただきたい。微力ながら関東経済産業局も応援いたします」との挨拶を戴きました。

その後、全日本プラスチック製品工業連合会の服部会長様のご発声で乾杯し、賑やかに祝賀会が始まりました。

全日本プラスチック製品工業連合会　賀詞交歓会

景気の回復を信じ 力を合わせて危機を乗り越えよう

挨拶をする服部会長

平成21年１月28日㈬全日本プラスチック製品工業連合会の平成21年新年賀詞交歓会が八重洲富士屋ホテルで開催されました。

経済産業省の高田化学課長様はじめ多くの業界関連団体、企業のご来賓と連合会傘下の四地区工業協会の役員、会員の皆様 約80名が出席し開催されました。

席上、服部和彦連合会会長からは以下の新年挨拶がありました。

「遅ればせながら皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は、私ども全日本プラスチック製品工業連合会の運営と活動に関しまして、多くの皆様方から多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

また、本日の賀詞交歓会に際しましては、公私共お忙しい中、経済産業省の高田化学課長様はじめ 多くのご来賓の皆様、そして連合会の皆様、ようこそおいで下さいました。重ねてお礼申し上げます。

さて昨年の世相漢字は「変」でしたが、良くも悪くも、胸が苦しめられる世相の変化が多々ござい

ました。

政治の変　日本の首相の交代、
　　アメリカの新旧大統領のチェンジ
経済の変　世界的な金融情勢の変動。
　　株価暴落に円高ドル安の大幅変動。
原油の変　原材料価格の大幅変動。
生活の変　食の安全性に対する意識の変化。
　　物価の上昇による生活の変化。
気候の変　世界的規模の気候異変による、
　　地球温暖化問題の深刻化。
未来の変　筋書きのないドラマ

数えれば枚挙にきりがない多くの変化でした。そして今、変わらなければならない時代であり、また変わらなければならない年です。

変わるべき先陣を切ったのはアメリカでした。第44代の オバマ大統領が誕生しました。ご承知のように、国民の幅広い層から圧倒的な支持を得た 黒人初の大統領です。その誕生という歴史的な場面をこの目で確認しようと約200万の人々がワシントンに集まり、盛大に就任式が行われました。未来を凝視しました。対岸の日本よりテレビで拝見しても、世界の閉塞感を打ち破ってくれるような 希望を抱かせるイベントではありました。

しかし、世界同時不況からの脱却という期待が大きい反面、成果は直ぐに現れるものでなく、期待した分の反動や人種差別の顕在化といった不安感も消えないかとも思われます。

日本においても、100年に一度の不況といわれています。先日開かれた日銀の金融政策決定会合で、昨年、今年ともマイナス成長を予想し、「景気の悪化は続く」ということでした。

私たち連合会にて四半期毎に実施している十二月末・会員アンケート調査でも、業況の見通しが【好転】したと回答した企業が０％に近く、悪化企業が圧倒的に増えたこと等が、企業経営の厳しさを物語っております。

国際競争力のある日本の産業（大企業）を縁の下で支えているのは私達の中小企業であると言われています。日本経済の発展に大きな貢献を果たしてきた 多くの中小企業が、今危機的な状況にさらされております。

「中小企業の優れたモノ作り」を絶やさないためにも、関連業界の皆様や国、地方等の官公庁の皆様には引続きご支援ご協力を賜わるようお願いする次第です。

さて昨今の世相は異常が正常になり、正常が異常になる等正常と異常が交錯し、ともすれば己を見失うことすらあり決断に混迷いたします。

経済産業省・高田課長様

「流れる水は清い・溜まる水は臭い」と申しましてこんな時こそ・今こそ・何らかのアイデアで何等かのアクションを起こしましょう　行動に移しましょう

新たな活路を見出すべく的確な情報を得て、あらゆる手段を用い、それぞれの企業にて、先ず身近な社員から夢ある目的を掲げ、この業界の将来に向けて、新たなる道を開いて頂きたいと思います。

さすればやがて、この嵐も止み衰え、私達の英知と努力での結晶がいつかは天に届き、いつかはお客様に届き、新たな製品が生まれ、大空に新たな虹が輝き、明るい太陽が必ず私達を導いてくれる事を信じて居ります。

必ず明るい職場が甦ってきます。きっと何らかの大きな答えが待っています

朝の来ない夜はありません。寒い冬ばかりではありません。春は必ずやってきます。一日も早い景気の回復を信じ、会員一同、力を合わせこの危機を乗り越えて参りたい と思っております。

皆さん頑張りましょう

最後に本日 ご臨席戴きました ご来賓の皆様には、何卒、私ども業界に対しまして、引続き倍旧のご支援、ご協力を賜りたく宜しくお願い申上げます。

そしてこの一年が、皆様方にとりまして「災い転じて福となす」より良い年になりますことをご祈念申上げ、新年のご挨拶とさせて戴きます。

本日は　誠に有難うございました」

次に来賓のうち、経済産業省・化学課の高田修三課長様より以下の挨拶を賜りました。

「昨夏以降の景気の急速な後退、何が起こっているのか、その中で行政として何が出来るのかについて常々考えているところです。昨年10月の第１次補正予算で、緊急保証制度を作ることが出来、財務省に掛け合って化学課に関係するほとんどの業種を指定させて戴いた。12月最終日には一日で500億円の保証実績がありました。二階経済産業大臣以下幹部も陣頭指揮で年末まで役所に詰めて

力を入れてくれました。

貴連合会は創立以来45年の歴史を有し、今日まで立派に歩んでこられた。私どもは中小企業の技術の高度化は大事であると認識し、皆様から現場の生の声を入れていただいて、プラスチック成形の技術指針の見直しをいたしました。

海の向こうで起きた金融危機が世界的に悪影響を及ぼしている状況ですが、多くの中小企業において路頭に迷うことが少なくなるよう必要な施策を執り行っていきたい。今年一年が良い年になることを願っています」

続いて、(社)西日本プラスチック製品工業協会の原会長のご発声で乾杯し祝賀会が始まりました。

地球温暖化あれこれ（四季）

昨年の前半では地球温暖化に関するマスコミ報道が非常に多かったが、後半に入りあまり報道されなくなった。マスコミ報道はそのときの社会的関心の高いテーマを取り上げる傾向があり、問題の本質とは関係なさそうである。それに代わって、アメリカ発のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況に関係したニュースが社会的関心を集めている。アメリカは世界のＧＤＰの十数倍にものぼる金融商品を世界中にばらまき、カネがカネを生む仕組みを作り上げた。この金融システムが破綻したことで、実体経済では、わが国においても自動車、電子・電機、精密機器などの主要製品の販売落ち込みによる減産、増産計画の中止・延期など、また関連する鉄鋼、化学などの素材産業も同様な状況にある。このような生産縮小、消費低迷などは、結果として温暖化ガス（二酸化炭素）排出量の削減につながる。京都議定書の批准を拒否したアメリカが、自国を含め世界の温暖化ガス排出量削減に大きく貢献するとは、何という皮肉であろうか。

さて、温暖化ガス排出量を削減することは世界共通の正論ではあるが、各論になると、それぞれのお国の事情や戦略によって、おかしなことも起こっている。

文藝春秋の2008年２月号(p196～205)で、武田邦彦氏は京都議定書のカラクリとして、表に示す資料を紹介している。同表は実際の排出量、京都議定書が課した削減率、議定書の実施状態を整理したものである。

国	温暖化ガス排出量（CO_2換算億トン）		削減率			実施状態	
	1990	2000	会議の時（A）1)	署名（B）2)	差引（B－A）	議定書	削減
日本	11.9	13.4	13%	－6%	－19%	批准	○
アメリカ	61.3	70.4	15%	－7%	－22%	批准せず	－
ドイツ	12.5	10.1	－19%	－8%	11%	批准	－
イギリス	7.4	6.5	－13%	－8%	5%	批准	－
カナダ	6.1	7.3	19%	－6%	－25%	離脱	－
ロシア	不明	不明	－38%	0%	38%	批准	－

註：１）基準年である1990年から京都会議が開かれた1997年までの削減率（増減率）

２）基準年である1990年に対する2008～2012年の削減目標

同表のようにドイツ、イギリスなどは1997年の時点ですでに大幅な削減を達成しており、逆に増加枠を持っていることが分かる。これは、ドイツでは東西ドイツの統一によって、排出量の多かった旧東ドイツが1990年以降に大幅削減できたこと、イギリスは高効率の発電装置を1990年以降に急速に導入したことなどが寄与している。一方、1980年代から省エネ化を進めてきた日本は削減余地が

少なく、基準年1990年に対しては大きな削減目標を負ってしまうことになる。ＥＵは、基準年を1990年とすることによって、自国に有利な立場を確保する戦略のようである。そのため、アメリカは批准拒否、カナダは離脱し、日本だけが実質的な削減目標を課せられる結果になっている。このことに関し、同氏はＥＵが1990年を基準にして自国にとって有利な削減目標にすることで、将来の国力や経済発展で有利な立場を確保するための戦略であると断じている。

一方、旧ブッシュ政権が環境政策として推進した穀物からのバイオ燃料の製造は、穀物価格の高騰を招くと同時に、環境政策としては全く逆効果であったと言われている。米ミネソタ大学のデビッド・ティルマン博士の研究によれば、熱帯林や草原を農地に変え、穀物を植えてバイオ燃料にしているが、その過程で放出される二酸化炭素は、得られたバイオ燃料がもたらす二酸化炭素削減効果の17～420倍にもなるということを実証している。穀物ではなく、ワラのような廃棄物や耕作放棄地に自然に生える多年草からバイオ燃料を作れば二酸化炭素を大幅に削減できるという。このように、一見環境対策になるように見えることも、トータルでみると削減には逆効果になることもある。

さて、日本の場合は、自動車、家電などを始めとする製品の省エネ技術は世界で最も高いレベルにあり、温暖化防止に真面目に取り組んでおり、今後環境技術立国として生きてゆく道が残されている。

プラスチック射出成形に目を転じると、日本の射出成形メーカにおける電動式射出成形機の普及率は70％前後と推定される。一般的に油圧式射出成形機に対し、電動式では40％～50％程度の省エネ化(消費電力)ができるといわれるので、全体として30～35％の省エネ化を達成していることになる。さらに、電動式では作動油の廃油処理も必要なくなることを含めると、温暖化ガス削減効果はさらに大きくなる。一方、ＥＵでは、電動式射出成形機の普及率は、まだ30～40％と推定される。環境問題でリーダシップを発揮しているＥＵと日本で、電動式射出成形機の普及率が逆になっているのは、何故であろうか。　　(案山子)

【経営改善強化部会　主催】

第17回改善事例発表大会のご案内

恒例の標記発表大会を下記のとおり開催いたします。
昨今の厳しい経営環境下、改善活動を着実に進めて生産性を向上し、未曾有の経済不況にも耐え得る企業体質を築きあげることが必要です。今年も奮ってご参加ください。

記

1．日　　時：平成21年３月13日（金）
　　発表大会　14時30分～17時20分
　　懇 親 会　17時30分～18時30分

2．場　　所：東日本プラスチック工業年金基金会館　４会議室
　　東京都台東区柳橋２－２１－８　　電話 03-3862-4308

3．発　　表：
　　① 株式会社　ユーシン精機
　　② 公認会計士・税理士　前原　東二氏
　　③ 株式会社　エアロ・ピュア
　　④ 株式会社　奈良機械製作所

4．会　　費：5,000円（１名様、資料代、懇親会費含む）

5．問合せ先：事務局　上瀧(こうたき)　　電話 03-3541-4321

《平成20年10月～12月会員業況調査報告（全国版）》

【平成20年12月末実施　総回答数299社】

1．地域別内訳（事業の中心をおいている地域）

東日本	71社	神奈川県	24社	中部日本	67社	西日本	137社

2．売上（または取扱）商品の中で最もウエイトの高いものの内訳

日用品・雑貨類	42社	包装用容器・キャップ	46社	電気・電子・通信部品	66社	自動車・輸送機器部品	88社
住宅関連	18社	医療機器	4社	その他	33社		

3．従業員数の内訳（パートを含む）

20人未満	65社	21～50人	81社	51～100人	71社
101～300人	54社	301人以上	20社		

4．今期（平成20年10月～12月）の自社業況について（前期比・前年同期比 %）

	平成20年10月～12月（実績）					
	前期（20年7月～9月）比			前年同期（19年10月～12月）比		
1）生産・売上高	1.増加	2.横這	3.減少	1.増加	2.横這	3.減少
	8.4	29.8	60.9	8.7	18.1	72.6
2）製品単価	1.上昇	2.不変	3.下落	1.上昇	2.不変	3.下落
	13.4	66.9	18.4	20.7	49.5	28.4
3）採算	1.好転	2.横這	3.悪化	1.好転	2.横這	3.悪化
	3.0	30.8	65.2	4.3	21.7	73.2
4）所定外労働時間	1.増加	2.横這	3.減少	1.増加	2.横這	3.減少
	5.0	40.5	53.5	4.7	36.1	58.5
5）製品在庫	1.増加	2.不変	3.減少	1.増加	2.不変	3.減少
	18.7	49.5	30.5	19.7	43.1	35.8
6）材料原料単価	1.上昇	2.横這	3.下落	1.上昇	2.横這	3.下落
	45.8	41.8	11.4	61.5	24.1	13.4
7）総合判断	1.好転	2.横這	3.悪化	1.好転	2.横這	3.悪化
	3.0	30.1	65.6	3.3	21.4	73.9
8）21/1-3の見通し	1.好転	2.横這	3.悪化	1.好転	2.横這	3.悪化
	1.3	18.4	77.6	1.7	17.4	79.3

5．当面の経営上の問題（%）

1.受注不振	2.売上不振	3.輸出不振	4.製品単価安	5.取引条件悪化	6.過当競争
69.2	61.5	8.7	35.8	5.4	16.4
7.輸入品との競合	8.流通経費増大	9.原材料高	10.借入負担増	11.貸し渋り	12.人件費高
4.1	9.4	47.8	12.0	3.7	16.4
13.技能者不足	14.技術力不足	15.マーケティング力不足	16.設備過剰	17.法的規制	18.為替問題
10.7	11.0	2.7	9.7	1.7	5.7
19.環境問題	20.人材育成	21.研究開発	22.その他		
1.7	13.0	4.0	0.7		

６．新しき年に向けて 皆様のご意見、ご要望

○新製品の開発と新しいマーケットの開拓
○世界的金融不安による景気の底がいつ来るか？今年の中・後期頃？　等を覚悟して損益分岐点を大きく下げて極力借入をせず、ピバークして、次のチャンスを待っているつもり。
○原油価格が昨年７月147＄で現在は43＄にもかかわらず､原材料価格は下がらない。メーカーからは原油上昇時には材料値上げを飲まないと出荷出来ないと言われた。今値下げの交渉するが難航。
○緊急経済対策には、自動車買替特例として期限付きで自動車取得税、重量税等それに付帯する諸税の軽減処置の実施、研究開発関連の基礎的投資に対する税の減免・優遇等の実施を盛り込むべき。格差社会の根元である消費税の即時廃止。
○仕事は待たずに、自分でしかけよう。自分で作ろう。辛抱と飛躍の年。
○先行きが不透明で全く予想が出来ない状況です。新商品の開発を主に、人材確保のチャンスと受け止めて前向きに挑戦したい。
○生き残れるか？将来不安。
○世界的な景気悪化、円高等で受注が減少し非常に厳しい、先も見えず稼働率も悪く困っている。
○費用圧縮は勿論のこと、いかに資金を確保するかが最重要課題と考えている。
○３月末までは景気後退が続くと思われるが、自動車業界においては４月以降若干の回復がみられるのではないかと期待している。
○資金繰り悪化にそなえ、銀行からの借入れがスムーズに行えるように工業協会の方から政府に働きかけて欲しい。
○地道な営業活動及び苦しくても新製品の投資は、きちんとやる。無駄な経費は削減。
○国内消費者の気持ちを冷え込ませないように新しい需要製品を探したい。
○原材料価格が下げ渋っている。車関連の仕事が12月以降、パッタリと無くなる。
○開発テーマを早急に見つけ、競争がある商品を育てて行くことが2009年度のテーマです。
○グローバル化、規制の緩和、市場原理主義の実施により、企業格差が広がり製品の買い叩きが起こり景気が悪くなっていると思う。政策の過ちも景気後退に至った原因ではないか。日本のものづくりの技術、品質管理は国際的にトップレベルにあり、それを念頭においた政策が最も重要であるものと考える。中小企業の社員は、大企業にとって大切なお客様でもある。お客様を大切にしない企業の商品は売れないのが当たり前にも関わらず中小企業から搾取している大企業があるのが現実である。
○モノ作りや、一般管理費などにおける、ムダの排除をさらに追求し、生き残りをかけて行く。
○回復の見通しが立たない為、先々不安である。
○キャッシュ＆フローを重視する。
○９、10月は新規受注の量産があって比較的好調だったが、12月以降の営業予測は約４割減の受注見込み。費用構造の大きな見直し(賃金カットも含め)をせざるを得ない状況。年頭の挨拶に元気の出る話をしたいが良いネタが見つからない。
○顧客からの受注が今後どう変化するか読めず、年度計画さえ立案できません。今こそ国を上げての綜合的景気対策を切望します。
○実態経済の急速な悪化に翻弄される一年となりそうだ。これには可能な限り耐えていかなければならないと思っているが、政治の混迷、指導力のなさには全く失望している。
○大同団結して原材料ﾒｰｶｰと急速に値上げ交渉をしなければならないと思います。値上げの時は迅速であったのに値下げに対しては非常に遅い対応です。これだけの成形加工ﾒｰｶｰが加盟している組織力を活かしてこういう時に材料ﾒｰｶｰとの価格交渉等に組合としての力を発揮して頂くよう切に願うものです。
○海外依存度や米国的自由主義による競争、喰い争いが日本的商業の良い所を消してしまった。企業は日々成長しなければいけないものだが、急激な成長は必ず問題点を生み出してしまうもの。来る年は地道に且つ確実な成長を遂げ続ける基盤固めを進めたい。
○売上げが減少し設備投資がやりにくい。
○借入金の返済が当初の計画通り行かず(受注不振の為)、一日も早い景気回復を願っています。又、借入金利息が下がっていくこともお願いしたいです。
○急激な売上げの減少により、どの企業も資金繰りが苦しくなる。政府には予定納税の納付額の見直しや省エネ設備の補助金等、本当に実になる方向への予算をとってほしい。
○何をやるにしても各メディアが不景気感を煽り、その煽りが余計により不況を呼んでいる感がしています。自社の本来の姿を見失う事なく、前向きに行きたいと思っています。
○会社存続にあたり、ワークシェアリング外注加工を内製にする。採算が合えば小さなロット数量の受注も積極的に行ない人脈を活かしトップセールスを今までより一層行う。社内の生産活動の効率を極限まで上げる、又使うエネルギーを省力化する工夫を小さな事から即実施する。見える形にして作業者一人々がそ

の場で認識できるシステムがもうすぐ稼動するのでより一層の生産活動が効率化出来、スキルアップがより活発化して少数精鋭で出来るようになる。
○取引条件の急激な悪化や受注量減少が激しく先が見えない状況が続きそう。
○適度な雇用調整を計るとともに諸般の見直し、余暇を利用して従業員の教育訓練に力を入れる。技術力の強化に努める。
○総合的には打つ手なし、部分的には経費削減、人員削減など。作業効率の見直し。人員削減などすべて会社(社長)に責任があるように報道されるのは間違いである。2009年こそ生死を分ける年である。
○売上の減少に対応するため、最大ネックは人件費縮小策、妙案があれば知りたいものです。
○徹底した合理化、コスト削減、不採算製品からの徹底へのﾁｬﾝｽと捉えて前向きに経営を進めていく。
○昨年までは堅調に推移したが１月以降は急降下するものと考えています。削減できるもの、しなければならぬ手は直ちに打って嵐の去るのを待つのみ。
○本当に大変な状況。しかし打つ手は無限、気持ちだけは前向きに行こうと思っていますが。こんな時こそ知恵を出し合えたらと思います。
○適正在庫を守り、良い品質の提供で、お客様の要望に対応したい。
○国による景気対策、公共事業対策を早く行うこと。
○前回のバブルがはじけても生き抜いた経験を生かし、景気が回復したときの活力を蓄える為の「人材育成の年」ととらえて、会員の皆様に情報発信して支援する予定です。
○ピンチをチャンスと考え大胆な改革に取り組みたいと考えています。
○年明けの２月、３月以降の受注量が不確定で、大きく減少すれば人員の削減もやむをえない。生産工場としては製造原価をいかに抑えられるか、又、自動化等の対策を実施し、生産の効率を向上することが更に必要と思われます。
○国内景気だけでも回復できるよう、政治的な施策を期待。
○厳しい経営環境の中、経費削減や設備投資の厳選を図ることで景気後退を乗越えるつもり。
○資金繰りを確実に行い、人材育成等に重点を置き、外部環境が好転するまで耐える。
○収益力強化、固定費削減など企業の自助努力。大胆な事業改革。(業界再編の動き？)
○経費削減、雇用調整を図る。
○新規引き合いの獲得の為にも積極的営業活動と支出減にて前向きに対応するつもりです。
○先が見えぬ状態が続きそう。ムダの排除に努める。
○100年に一度の不況。売れる商品開発を第一と考えて乗り切る所存です。
○需要の下降、低単価志向の市場に対していかに対応していくかが課題。
○先が見通せないこの不況下、いかにして残るか知恵の限りを尽くし前進することです。業界協調も大事ですが、個々により一層の企業努力をすることだと思います。
○10～12月期が比較的良かったのは冬物の受注が増えた為。ただ12月までで冬物の生産がほぼ終了。１月～５月頃までが全く不透明。生産調整、経費削減等あらゆる対応を考えている。一方新規の仕事は期待薄。政治、行政の不正、怠慢も日本経済の悪化に少なからず影響していると思う。
○刻々と受注が下方修正され、月初100個単位であったものが大幅減少又は０になっている。
○手探り状態だが、売れる商品作りを考えて行きたい。新商品の開発等に対し金利を低く期間を長く融資を行って欲しい。
○12月に入り、自動車関連も減少してきたが、電子部品が更に急減している。新年を迎えるこの状況は、予想を大きく超えて悪化している。要因が在庫調整であることを願っている。在庫調整ならいずれ回復をするのだが。明るい情報が欲しい。
○スキマ市場へのアプローチ、アクションを今後展開し、独自の開発を進める。
○売上は対上期40％減、対前期50％減です。
○何が起きてもおかしくない。何が起きるか分からない。
○自動車分野の減産影響が大きい。固定費カバー等工夫が大変であるが、何とかしのぎたい。
○各種先物取引に関し、規制することが絶対必要。
○生産方法、販売方法の見直し、改善を図る必要あり。
○もう少し現実的な各会員様の意見・状態の情報収集・その資料・整理・情報開示を求めます。あまりに一方的で、親切身に欠ける所があります。
○行政は現状認識が甘く、金融機関特に信用保証協会はシステム的に機能してない感あり
○技術力のＵＰ　　新製品の開発
○変化に対する対応しかない。政府の中小企業に対する援助拡大。道路建設の不要及び無駄の排除
○人員過剰．需要回復まで原価低減に努め、企業の足腰を強化する
○21年、経済情勢は日々悪化していくと報じられているが、少しずつ景気の落ち込みを実感しつつある。夜明けはいつ頃になるのかさえ分からない状態で、情勢を見守りつつ対応していくつもり。

各分類ごとの業況判断（平成20年10～12月期　前期比）

数字はすべて前期比で、単純平均％で表示しております
傾向がわかるように、値が50％以上の場合は網掛けを行っております

	①生産高・売上高			②製品単価			③採算			④所定外労働時間			⑤製品在庫			⑥材料調達単価			⑦総合判断			⑧来期の見通し		
団体別	増加	横這	減少	上昇	不変	下落	好転	横這	悪化	増加	横這	減少	増加	不変	減少	上昇	横這	下落	好転	横這	悪化	好転	横這	悪化
東日本	2.8	32.4	64.8	9.9	70.4	19.7	0.0	33.8	66.2	4.2	47.9	47.9	16.9	54.9	28.2	42.3	49.3	8.5	0.0	36.6	63.4	0.0	26.8	73.2
神奈川県	8.3	29.2	62.5	8.3	66.7	25.0	4.2	12.5	83.3	4.2	33.3	62.5	12.5	41.7	45.8	41.7	50.0	8.3	0.0	25.0	75.0	0.0	29.2	70.8
中部日本	4.5	20.9	73.1	11.9	61.2	25.4	1.5	25.4	71.6	3.0	19.4	76.1	19.4	40.3	37.3	43.3	47.8	7.5	1.5	20.9	76.1	0.0	10.4	85.1
西日本	13.1	32.8	52.6	16.8	67.9	13.1	5.1	35.0	58.4	6.6	48.2	43.8	20.4	52.6	25.5	49.6	33.6	15.3	5.8	32.1	59.9	2.9	16.1	77.4

製品別	増加	横這	減少	上昇	不変	下落	好転	横這	悪化	増加	横這	減少	増加	不変	減少	上昇	横這	下落	好転	横這	悪化	好転	横這	悪化
日用品・雑貨類	11.9	42.9	45.2	31.0	64.3	4.8	2.4	47.6	50.0	9.5	64.3	26.2	28.6	50.0	21.4	66.7	21.4	11.9	7.1	38.1	54.8	2.4	14.3	81.0
包装容器・キャップ	8.7	54.3	37.0	21.7	73.9	4.3	4.3	41.3	54.3	2.2	65.2	32.6	19.6	63.0	17.4	47.8	34.8	17.4	2.2	54.3	43.5	4.3	41.3	54.3
電気・電子・通信部品	4.5	30.3	63.6	4.5	60.6	33.3	3.0	19.7	75.8	9.1	28.8	60.6	10.6	53.0	34.8	40.9	45.5	12.1	1.5	24.2	72.7	0.0	12.1	86.4
自動車	3.4	10.2	85.2	3.4	68.2	26.1	1.1	13.6	84.1	2.3	13.6	83.0	22.7	30.7	45.5	39.8	51.1	8.0	2.3	9.1	87.5	0.0	4.5	92.0
住宅関連	22.2	44.4	33.3	11.1	61.1	27.8	11.1	50.0	38.9	11.1	61.1	27.8	11.1	66.7	22.2	38.9	50.0	11.1	5.6	50.0	44.4	0.0	16.7	83.3
医療機器	0.0	25.0	75.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0	0.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0
その他	18.2	24.2	54.5	24.2	72.7	0.0	3.0	51.5	42.4	0.0	57.6	39.4	15.2	60.6	18.2	48.5	42.4	6.1	3.0	45.5	45.5	3.0	39.4	48.5

人数別	増加	横這	減少	上昇	不変	下落	好転	横這	悪化	増加	横這	減少	増加	不変	減少	上昇	横這	下落	好転	横這	悪化	好転	横這	悪化
20人未満	4.6	40.0	55.4	15.4	73.8	10.8	0.0	36.9	63.1	1.5	41.5	56.9	21.5	56.9	21.5	52.3	38.5	9.2	0.0	38.5	60.0	1.5	18.5	80.0
21～50人	11.1	34.6	53.1	11.1	70.4	17.3	4.9	40.7	53.1	7.4	46.9	44.4	12.3	56.8	29.6	48.1	40.7	9.9	6.2	40.7	51.9	2.5	19.8	72.8
51～100人	7.0	25.4	66.2	21.1	52.1	23.9	2.8	19.7	76.1	2.8	42.3	53.5	21.1	47.9	28.2	49.3	39.4	9.9	1.4	18.3	78.9	0.0	18.3	78.9
101～300人	7.4	20.4	70.4	7.4	68.5	22.2	0.0	25.9	72.2	7.4	24.1	66.7	18.5	35.2	44.4	33.3	51.9	13.0	1.9	24.1	72.2	0.0	14.8	83.3
301人以上	15.0	20.0	65.0	10.0	65.0	25.0	15.0	15.0	70.0	5.0	45.0	50.0	30.0	40.0	30.0	25.0	50.0	25.0	10.0	20.0	70.0	0.0	20.0	80.0

全体および製品別分類ごとの経営上の問題点（平成20年10～12月期）

数字はすべて前期比で、単純平均％で表示しております
傾向がわかるように、値が50％以上の場合は網掛けを行っております

経営上の問題点	受注不振	売上不振	輸出不振	製品・請負単価安	取引条件悪化	過当競争	輸入品との競合	流通経費増大	原材料高	借入負担増	貸し渋り	人件費高	技能者不足	技術力不足	マーケティング力不足	設備過剰	法的規制	為替問題	環境問題	人材育成	研究開発
製品別																					
日用品・雑貨類	54.8	61.9	9.5	26.2	2.4	28.6	9.5	7.1	61.9	11.9	4.8	11.9	11.9	11.9	0.0	7.1	0.0	11.9	2.4	21.4	11.9
包装容器・キャップ	39.1	43.5	2.2	50.0	6.5	19.6	8.7	8.7	67.4	4.3	4.3	4.3	21.7	15.2	6.5	2.2	2.2	2.2	2.2	26.1	6.5
電気・電子・通信部品	87.9	56.1	6.1	31.8	3.0	15.2	0.0	7.6	37.9	12.1	1.5	24.2	9.1	15.2	3.0	9.1	4.5	6.1	1.5	10.6	1.5
自動車	83.0	79.5	15.9	39.8	4.5	10.2	3.4	10.2	38.6	19.3	5.7	22.7	5.7	3.4	1.1	17.0	0.0	3.4	2.3	4.5	0.0
住宅関連	61.1	61.1	0.0	33.3	11.1	22.2	0.0	11.1	44.4	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	0.0	11.1	0.0
医療機器	75.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
その他	60.6	51.5	3.0	27.3	12.1	15.2	3.0	12.1	42.4	6.1	0.0	12.1	12.1	18.2	3.0	6.1	0.0	9.1	0.0	12.1	9.1
人数別																					
20人未満	73.8	53.8	9.2	30.8	10.8	13.8	3.1	10.8	50.8	12.3	1.5	12.3	6.2	7.7	0.0	9.2	3.1	3.1	1.5	4.6	6.2
21～50人	55.6	58.0	7.4	37.0	7.4	19.8	3.7	3.7	53.1	13.6	6.2	11.1	17.3	14.8	4.9	6.2	1.2	4.9	1.2	14.8	1.2
51～100人	73.2	74.6	8.5	38.0	2.8	19.7	7.0	16.9	49.3	11.3	5.6	18.3	12.7	11.3	2.8	8.5	0.0	2.8	1.4	16.9	0.0
101～300人	79.6	63.0	5.6	40.7	0.0	14.8	1.9	9.3	35.2	13.0	1.9	27.8	5.6	11.1	1.9	14.8	3.7	9.3	1.9	14.8	9.3
301人以上	70.0	45.0	20.0	35.0	5.0	10.0	0.0	5.0	40.0	5.0	0.0	15.0	5.0	10.0	5.0	20.0	0.0	15.0	0.0	15.0	10.0

事務局レポート

■第296回　理事会議事録

1．日　時　平成21年１月22日（木）
14時15分～14時45分

2．場　所　上野精養軒　３階「菊の間」
東京都台東区上野公園４－58
TEL 03-3821-2181

3．出席者

（理事、監事）	齋藤　森作	曽我部　上
大野　泰昭	大井　英一	山下　勝意
鈴木　幸雄	白石　恵一	伊東　義也
滝口　　裕	飯高　一郎	佐藤　　昭
永井　幸一	安達　七郎	肥後　武重
腰越　　稔	小松　幹也	樫山　　徹
武田　久徳	田中　秀雄	松実　健二
松井　宏信	井上　雅博	髙橋　　廣
工藤　郁雄	飯塚　義彰	

4．会長挨拶

昨年後半以降、厳しい局面にありましたが協会活動は、国の委託を受けた人材確保推進事業と能力開発事業の方はお蔭様で順調に推移いたしました。皆様のご支援ご協力に感謝申上げます。

本来なら新年をおめでたく寿ぐのですが、経済環境がこれだけ厳しくなっており厳しい挨拶も申上げます。今年は昨年とは違った意味で、不安定な状況下で幕開けした。昨年初は、原油が100ドルを越え、円高、株安でスタート、その後原油価格は150ドルまで上昇。しかし９月にリーマンブラザーズが破綻すると、状況が急変し、株価は暴落、急な円高で90円を切り、原油は30ドル台まで急落する等、一般の予想をはるかに越えた数字で推移した。我々にとって原油価格の上昇分を価格へ転嫁できないまま、今度は価格が急落し、さらに米国の金融危機が世界景気の急減速を促し、100年に一度の世界的な不況に突入、国内でも仕事がなくなった。

20日にはオバマ新大統領が誕生し、200万人の米国民が集まったとのこと、果たして世界恐慌脱却への起爆剤になれるのか？期待していた反面、多くの新聞記事が金融システム不安の再燃とか、景気回復のシナリオが描きにくいといった不安説も見られ、今後の動向が注視されています。昨日の新聞に、22億円で伊フィアット社がクライスラー社の出資比率の過半を取得する権利を得たとの記事があった。因みに同社に対しては10年前には独ダイムラー社が３兆円超で買収、07年にはサーベラス社が６千３百億円で再買収している。10年前の1364分の一までクライスラー社の企業価値が暴落したことになる。

日に日に不況感が増しているが我々の仕事にどのような影響を及ぼすか、一日も早い回復を願いつつ、焦らず、慌てず、あきらめず冷静に足元を見つめ、経営基盤を強化していくしかない。今年一年が皆様の会社にも、当業界にも良い年になることを祈念し挨拶とした。

5．議事録署名人

議長は、定款第31条２項により、腰越稔理事、滝口裕理事を　議事録署名人に指名し了承された。

6．議　　事

議題１．経過報告

⑴　役員会等の開催

11月19日　第295回理事会
東プラ厚生年金会館

⑵　部会・委員会の開催

(ｱ)　技能検定運営委員会

12月５日　合格証書伝達式
銀座ラフィナート

12月６、７日　３級検定水準調整、実技試験
板橋校

(ｲ)　能力開発推進委員会

11月22，23日　成形技術講座⑤、⑥　板橋校
12月13日　成形技術講座（補講）　板橋校
１月13～15日　１年コース・スクーリング
代々木青少年センター
１月15日　講師慰労会　新宿「結庵」

(ｳ)　製品技術部会

12月９日　講演会・忘年会
サンミ高松・銀座店

(ｴ)　経営改善強化部会

12月12日　役員会・忘年会
東日本協会　会議室

(ｵ)　青年経営研究会（JPO）

12月４日　役員会　東日本協会　会議室

(カ)　技能士会
12月20日　講演会・忘年会
サンミ高松・銀座店
(キ)　人材確保事業委員会
12月９日　採用活動研究会　　サンミ高松
12月17日　雇用能力開発機構との打合せ
同機構・東京センター
12月18日　推進委員会　東武ホテルレバント
(3)　支部会等の開催
12月２日　江東支部会　東武ホテルレバント
12月17日　墨東支部会　東武ホテルレバント
12月17日　城北支部会　　上野・鴎外荘
(4)　連合会
11月28日　プラ技能検定推進協議会
八重洲富士屋ホテル
12月18日　連合会長挨拶回り

議題２．会員の入会・退会承認の件

(1)　入会の部
正 会 員　１社
①　会 社 名　御前山精密㈱
所 在 地　茨城県常陸大宮市長倉1139
業　　種　精密機器、内視鏡部品、
レンズ部品
(2)　退会の部
正 会 員　５社
①　会 社 名　五和精工㈱
②　会 社 名　㈲内山プラスチック
③　会 社 名　㈱ナナミ
④　会 社 名　宗村化工㈱
⑤　会 社 名　藤工業㈱
賛助会員　２社
①　会 社 名　コスモ石油ルブリカンツ㈱
②　会 社 名　エックスアロイジャパン㈱

議題３．平成21年賀詞交歓会役割分担等の件

本日の新春講演会、貢献者表彰式さらに賀詞交歓会の内容、役割分担等について、特に異議なく承認された。

その他報告事項

①　人材確保推進事業
下期の事業計画に沿って事業を実施中。２月のセミナーは開催日を23日(月)、逆境下の労務管理の留意点について講演を予定。年度末のアンケートも予定。
②　会員アンケート調査結果
特に、景気の悪化を反映し、好転と回答した企業がほとんどいなくなっている旨。
③　連合会行事（賀詞交歓会）
日時：１月28日(水)15時～理事会
17時～賀詞交歓会
場所：八重洲富士屋ホテル
※来賓、会員合わせて80名強が参加予定。
④　東日本プラスチック製品工業協会の今後のスケジュール
・３月18日(水)14時～　第297回理事会
東プラ厚生年金会館
・４月23日(木)14時～　第298回理事会
東プラ厚生年金会館
・５月21日(木)15時～　第299回理事会、
通常総会　　上野精養軒

以上で予定された議事が終了、議長は14時45分、理事会の閉会を宣した。

【人材確保事業委員会主催】

雇用管理セミナー開催のご案内

１．日　　時　平成21年２月23日(月)　午後３時～５時
２．場　　所　八重洲富士屋ホテル　３階「朱竹の間」
東京都中央区八重洲２－９－１　電話 03-3273-0220
３．講　　師　社会保険労務士　　鈴木　義一　先生
テーマ「逆境下における労務管理の留意点～ワークシェアリングによる労働条件の変更は可能か？～」
４．対　　象　会社の人事・労務管理職、代表者
５．参 加 費　テキスト代を含めて無料です
６．定　　員　30名（申込先着順です）
７．問 合 せ　事務局　髙橋（電話　03－3541－4321）